

令和5年度（2023年度）北海道・アルバータ州高校生交換留学促進事業

留学生現地レポート

I FOUND ★ THE DIFFERENCES!

Hokkaido/Alberta student exchange program 2023-2024



令和5年（2023年）12月12日発行
北海道教育庁学校教育局高校教育課

現地リポーター（留学参加者）

〈滞在期間 令和5年11月4日（土）～令和5年12月16日（土）〉

- 1 札幌月寒高校2年生（留学先：Harry Ainlay HS in Edmonton）
★ カナダのインターネット事情
- 2 札幌啓成高校2年生（留学先：Harry Ainlay HS in Edmonton）
★ カナダの教育システムとカリキュラム
- 3 札幌手稲高校2年生（留学先：Victoria School of the Arts in Edmonton）
★ カナダのカートについて
- 4 札幌白石高校2年生（留学先：Paul Kane HS in St. Albert）
★ カナダの学校
- 5 札幌国際情報高校2年生（留学先：Spruce Grove Composite HS in Spruce Grove）
★ 車から見た景色の違い
- 6 小樽桜陽高校2年生（留学先：Spruce Grove Composite HS in Spruce Grove）
★ カナダのショッピングモールの広さと学校生活の違い
- 7 苫小牧南高校1年生（留学先：Catholic Central HS in Lethbridge）
★ Driving
- 8 登別明日中等教育学校4回生（留学先：Ecole Secondaire catholic HS in St. Albert）
★ セントアルバートの高校
- 9 旭川東高校2年生（留学先：Harry Ainlay HS in Edmonton）
★ 日本とエドモントンの交通ルールの違いと授業の違い
- 10 鹿追高校2年生（留学先：Harry Ainlay HS in Edmonton）
★ 横断歩道用信号機

★ カナダのインターネット事情

私たちの生活には欠かすことが出来ないスマートフォン。カナダ留学においても、翻訳や情報収集、ホームステイ先との連絡手段として、スマートフォンは欠かすことが出来ないアイテムとなります。ここでは、カナダでのインターネット事情を報告したいと思います。

海外から多くの観光客が訪れるカナダは、日本と同等以上にインターネット環境が整備されています。エドモントンでは、学校や交通機関、ショッピングモール、空港などで、フリーWiFiをはじめ複数の手段で快適にインターネットの利用が可能でした。また、通信速度も安定していて、ストレスになることはありませんでした。

私は、利用しているモバイルでは、新たに通信環境（SIMカード）を用意する必要はなく、大手通信会社の TELUS や ROGERS、BELL を利用したモバイル通信（月2GBまで）が無料で利用可能でした。電話等はインターネット電話（FaceTime や LINE）でやりとりしていたので、電話通信料もかからず、ホームステイ先の家族とも連絡がとれ安心した生活が送れました。

最後に、モバイル通信は基本的には問題なく利用できましたが、カナダから日本のホームページへのアクセスはとても時間がかかることや、一部、日本のアプリ（PrimeVideo や AMEBA）などのサービスが視聴できないものがあったので注意が必要だと感じました。また、リージョンコードの違いで日本のスマートフォンにはダウンロードできないアプリなどもありました。



★ カナダの教育システムとカリキュラム

○教育システムについて

私が通っている札幌啓成高校は 1 コマあたり 50 分間の授業が午前に 4 コマ、午後には 2～3 コマあります。対し、Harry Ainlay High School は、午前・午後それぞれ 2 コマ、計 4 コマの授業があり、1 コマあたりの授業時間は 70 分間です。

また、日本の教育はカリキュラムや教育内容が国レベルで統一されています。ですが、カナダの高校には主要科目（数学、科学、社会、英語）の他に美容学、心理学、ファッション、フード、コンピューター、リーダーシップなど様々な選択科目がありました。カナダの教育は柔軟的で幅広い科目を選択できることが特徴です。よって、生徒は自分の興味や能力、進路に合わせた選択ができ、学びを深めることができると思いました。



私は美容学のクラスを受けたのですが、ほとんどの授業が実習でヘアアレンジやカール、カラーの練習でした。また、毎週金曜日はクライアントデーといってペアで髪を洗ったりヘアアレンジをしたりする授業がありました。これは、実際の経験を通じて生徒の能力やスキルを発展させる目的があるそうです。

○カリキュラムについて

私はカナダの高校のカリキュラムや卒業要件について疑問を持ったので、Harry Ainlay の先生や生徒に伺いました。

カナダの多くの学校は単位制で、卒業するための最低要件は各教科 5 単位の主要科目の他に、3 単位の体育や 10 単位以上の選択科目を取らなければならないなど細かな規則があり、卒業までに 100 単位とる必要があります。

多くの生徒の場合、1 年間に 8 科目の教科を受講しますが、単位を早く取得すればスペアという空き時間ができるそうです。私のパートナーは来年から 2 つスペアができるので午後からの授業だと言っていました。

Schedule Matrix View  

Gender: F Grade: 12 Room: EPS# 17342721 ASN: 314894320 Harry Ainlay

Enrollments for current school only.

Day	Terms	P1	P2	P3	P4
A	23-24	Physical Education 30 PED34455.5 Hark, Craig Room: 8002 P1(A-B) S1	Introductory Cosmetology CT845155.16 Patterson, Carrie Room: 108 P2(A-B) S1	ESL Level 3 ESL1122E.3 Radcliffe, Jelena Room: 392 P3(A-B) S1	Mathematics 30-1 MAT37915.4 Gannon, Jane Room: 513 P4(A-B) S1
B	23-24	Physical Education 30 PED34455.5 Hark, Craig Room: 8002 P1(A-B) S1	Introductory Cosmetology CT845155.16 Patterson, Carrie Room: 108 P2(A-B) S1	ESL Level 3 ESL1122E.3 Radcliffe, Jelena Room: 392 P3(A-B) S1	Mathematics 30-1 MAT37915.4 Gannon, Jane Room: 513 P4(A-B) S1

★ カナダのカートについて

日本のスーパーではお金を払わなくてもカートを使えるのが当たり前ですが、カナダのいくつかのスーパーではカートを動かすのにお金が必要です。

なぜかという使い終わったカートを定位置に戻してもらうためです。

日本ではカートを盗んで家に持ち帰るなどということはあまり聞きませんが、カナダでは、たまにそのようなことが起こったりするそうです。防犯対策などの観点からカートを使うときに1ドルを入れ、使い終わったときに所定の位置にカートを戻すと1ドルが戻ってくるような仕組みになっています。日本の公共施設にある下駄箱などの無料式コインロッカーと同じ仕組みです。

札幌でも一部の店舗で導入されたことがありましたが、すぐに無くなったそうです。ちなみにカートを動かすときに必要なお金は1~2ドルが多いそうです。

お金という誰にとっても必要不可欠なものを使った仕組みで、自分以外のお客さんやお店の方に迷惑がかからないような状況をつくるのは、とてもいい事だと思いました。



★ カナダの学校

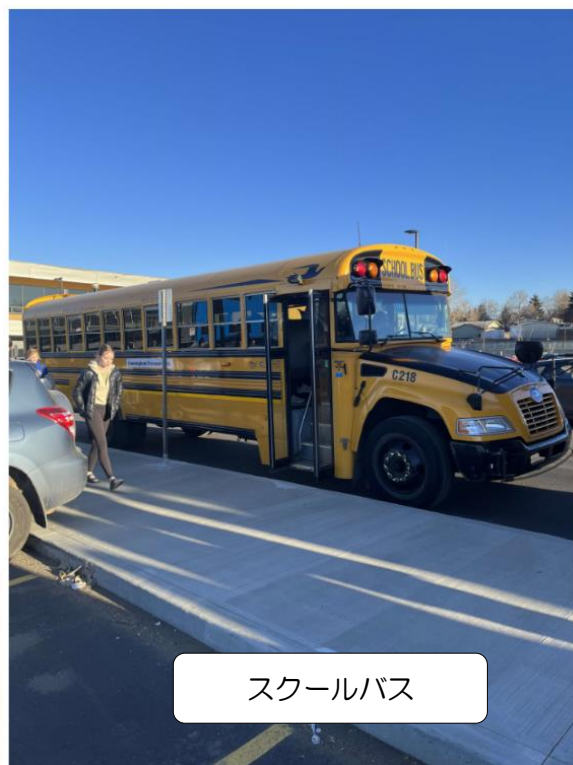
私が紹介するのは高校についてです。

登校は、朝 7 時 20 分に家を出発し、7 時 30 分に来るスクールバスに乗ります。

学校の日課ですが、北海道の学校との違いは、時間割が 90 分× 4 という形式であること、休み時間は 3 分しかないこと、ランチタイムが 50 分もあること、午後 2 時 30 分には学校が終わることです。

また、教室は授業ごとに決まっているため、授業に合わせて移動し、座席は自由です。毎時間移動する形式です。スマホを触っても、立ち歩いても、話をして怒られません。

下校はスクールバスを利用したり、パートナーの友達に送ってもらったりします。



スクールバス



ランチタイムの様子

★ 車から見た景色の違い

現地ですさまざまな発見がありましたが、車に乗って移動する機会がとても多かったため、特に道路や景色に注目してみました。

○まずわたしが驚いたのは制限速度の基準が高いところです。もちろん場所によって異なりますが、高速道路では110km/h 一般の道路でも100km/hの標識を目にしました。また、高速道路と一般道の区切りがなく、料金もかからないため、気がついたら高速道路に入っていたり、高速道路を走っていたら急に信号が現れるという経験が何度もありました。また所々にスピードメーターも設置されており、自分どのくらいのスピードで走っているのかを確認できるような仕組みになっています。さらに、高速道路は車線が多く、通常でも片側だけで3車線、出口や入口の車線も含めると多くて5車線あるところもありました。これらはカナダの広大な土地が活かされて成り立っているんだなと感じました。州によって異なるようですが、アルバータ州ではなんと14歳から運転免許保持者の同伴が条件で運転ができ、16歳からは1人で運転が可能だそうです。わたしのパートナーも運転免許を持っているので、毎日パートナーの運転で学校に通っています。日本では、ほとんどの人が公共交通機関を使って登校するので、大きな違いを感じました。学校には駐車するスペースが限られているため、住宅街に路駐し、そこから徒歩で登校しています。



○カナダのガスステーションは、多くの店がセブンイレブンのコンビニエンスストアが隣りあっています。日本ではめったに見ない光景だったので、思わず目に留まりました。ガソリンの値段が書かれた看板とセブンイレブンの看板が1つになっているのは新鮮でした。聞いたところによると日本のセブンイレブンと比べるとだいぶクオリティが低いそうですが、まだ行けていないので行ってみたいです。

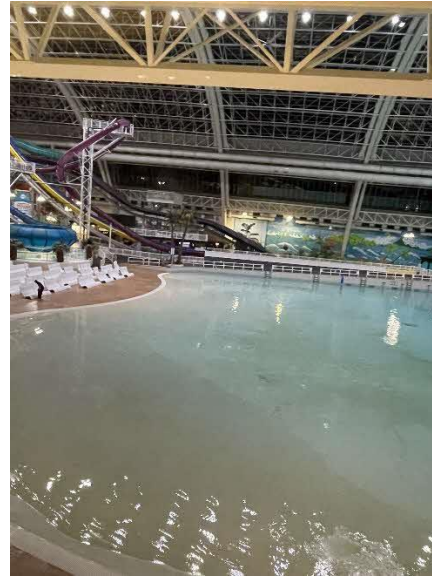
○最後に、ジャスパー国立公園の景色です。ドライブをして自然を堪能していたときにエルク、ビックホーン・シップ、ムースなどの野生動物に遭遇しました。エルクとビックホーン・シップは群れで行動しているのを目撃しました。ムースは車よりもはるかに大きかったです。ですが車を攻撃してくる可能性もあるため近づくのは危険だそうです。また、今の季節は冬眠していたため見れませんでした。夏には熊も普通に現れるそうで、外のゴミ箱は熊がゴミをあさるのを防ぐために全てふたがついていました。どれも北海道では見ない動物だったので貴重な経験になりました！



★ カナダのショッピングモールの広さと学校生活の違い

○カナダのショッピングモールの広さ

私は、ホストファミリーとウエスト・エドモントン・モールというショッピングモールに行きました。私がそこで驚いたのが規模の大きさです。屋内には、雑貨から高級ブランドまで幅広くたくさんの種類のお店、屋内とは思えないくらい大きすぎるウォーターパーク、そして遊園地までありました。

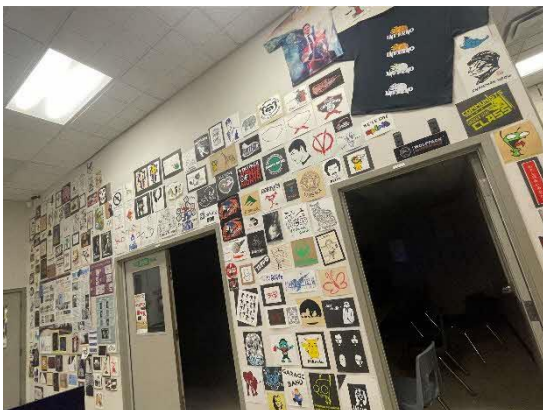


○学校生活の違い

カナダの学校では、1コマ70分授業で4コマありました。そして幅広くたくさんの科目があり、そこから自分が勉強したい授業を選ぶことができます。たくさんの科目があるため、学校も大きく、教室も多く、迷いそうになりました。

授業では、パソコンやスマートフォンを利用することが多く、スクリーンにQRコードを映してみんなで共有してクイズをするなど、ICT化がとても進んでいると感じました。

受ける授業によっては、パソコンで作業をする授業があり、その教室では生徒が作った作品が壁にたくさん飾られていました。



★ Driving

私は同じ学校に通っている生徒が車を運転していることに驚いたので、免許制度について書きたいと思います。

日本では18歳から免許を取ることができますが、カナダでは16歳と日本より早くからとることができるみたいです。私のホストシスターやその友達も自分の車を持っています。同じ学校に通っている生徒なのに車を運転していることがとても不思議です。私が現在通っている学校は校舎が West campus と East campus に分かれており、午前の授業が終わったら違う campus に移動しなければなりません(選択している授業によって異なります)。その際に、ホストシスターやその友達の車で移動することが時々あります。また、左ハンドルであったり、右側通行であったりなど驚くことがたくさんありました。



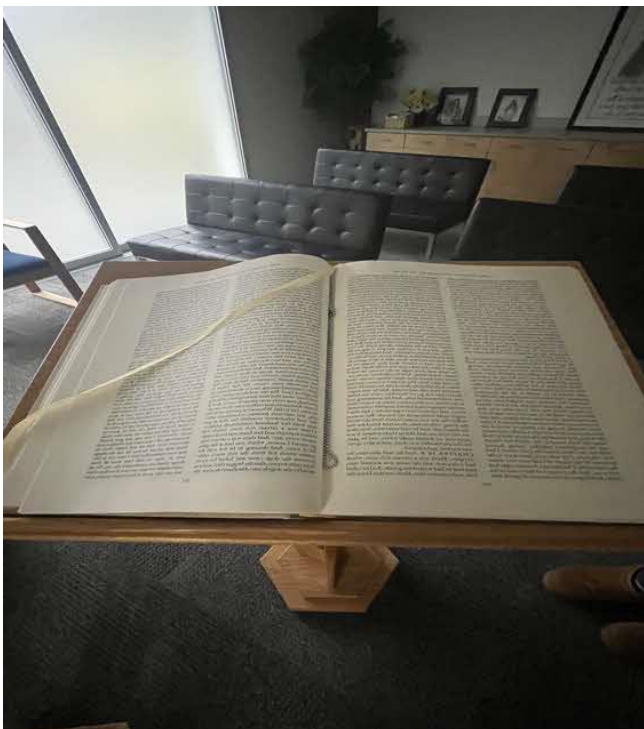
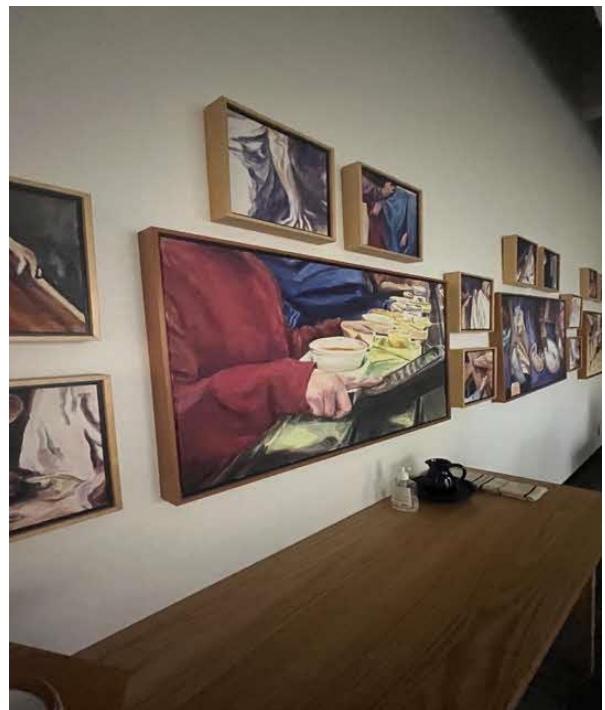
自分の車を運転しているホストシスター



右側車線から見える左側車線

★ セントアルバートの高校

私が通っているカナダの高校には、学校の中にチャペルがあります。チャペルの中は、たくさんの絵画がありました。とても神秘的でした。日本の学校の中にはこういった宗教的なものはなく、宗教を身近に捉え、重んじている文化の違いを感じることができました。



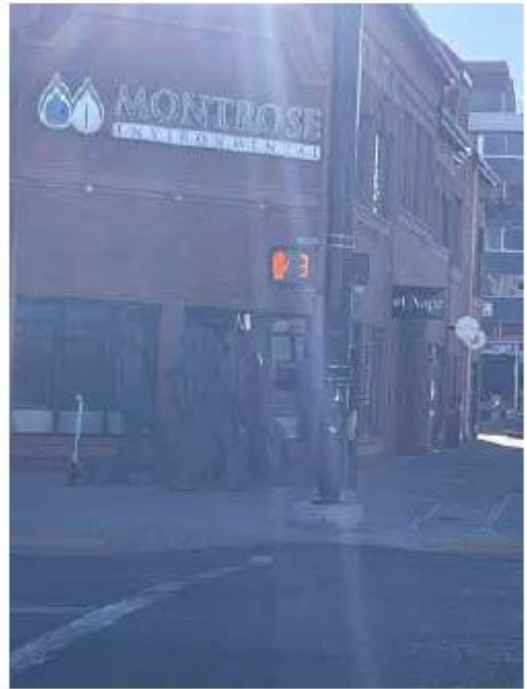
★ 日本とエドモントンの交通ルールの違いと授業の違い

○交通ルールの違い

私がホームステイしたエドモントンでは、信号機が日本と大きく違っていました。車道では3つまたは4つのシグナルで、歩道は1つの画面、2つのシグナルで表されていました。

車道は日本と同じような仕組みですが、右側通行なのはもちろん、赤信号でも右折することが可能な場合があったり、右折専用レーンが真っ直ぐではなく、ある程度曲がった状態で右折先の車線と合流する形になっていたりしました。

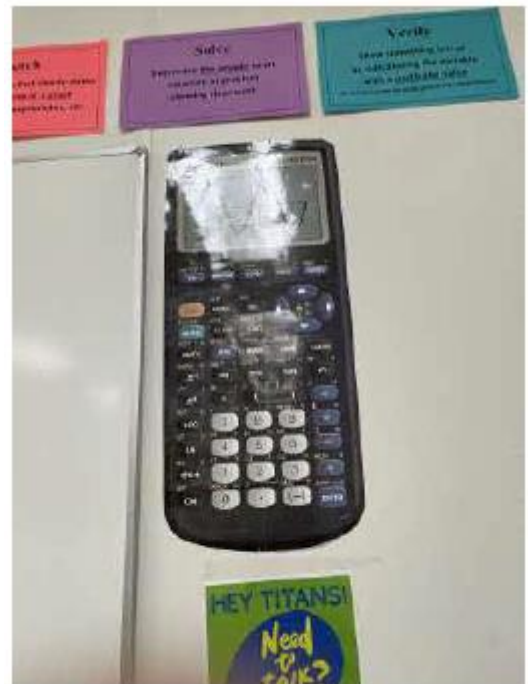
歩道の信号は「手」と「歩く人」の2種類のシグナルで表されています。歩く人のシグナルが日本での青信号と同じで、手のシグナルが点灯しているときは日本の赤信号と同じです。日本における青信号の点滅は手のシグナルの横のカウントダウンで表されます。日本と違ってあとどのくらいで渡れなくなるかがわかっていいなと思いました。



○授業の違い

数学の授業では、日本では手計算で解いていきますが、私が通った学校では特殊な電卓があり、それを使って解いてよいという形式でした。この電卓では、対数関数の計算もでき、非常に便利だなと思いました。日本でもこのようなものを用いた授業形態を取り入れるのも良いのではないかと思います。

また、ほとんどの授業でスクリーンを多用し、さらにはスクリーンに触れることで操作することもしていました。私が受けた授業では、先生がその場で書く「板書」はありませんでした。その日の授業でやることが Google Classroom で連絡されたり、「板書」の代わりにスライドが用いられたり、日本よりも動画を見る授業が多くあったりしました。そして、提出物や小テストは Google Classroom や Google フォームを多用していました。特に、小テストを Google フォームで行うのが私にとって衝撃的でした。



★ 横断歩道用信号機

私は横断歩道用の信号機に興味を持ちました。日本の横断歩道用の信号機は「止まれ」と「進め」が変わる時は点滅して教えてくれます。しかし、カナダの信号機は歩行者が横断できる時間を数字で表示し、カウントしてくれます！

私は日本の点滅する信号機よりも数字の方が分かりやすく、渡りたいけれど渡れる時間が残っているかわからない時に無理に進もうとすることも減るため、飛び出しによる事故防止にもなりとても画期的だと感じました。